

伊

議会だより

しぜん

第73号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙1842

事務局 ☎ (0997) 86-3111

編集 議会広報編集委員会

印刷 ㈱奄美新社印刷



前里屋敷オープンセミナー

前里屋敷(阿権)にて (令和4年4月18日)

令和4年 第1回定例会

一般質問



井上 和代 議員

生ごみ処理の対策について

問 生ごみ減量化対策として、生ごみを有機肥料化する案がなされていたが、コンポスト等を使用して一時的に減量しても根本的な解決にはならないと考えるが、町としての今後の方針を問う。

(町長)

答 日置市と包括連携協定を結び、伊仙町として有機肥料化の準備を進めている状況で、地球温暖化対

策と世界自然遺産になったことも踏まえ、率先して進めていきたい。

(きゅらまち観光課長)

先行地域との包括連携協定に基づき、堆肥化するノウハウ等を連携いただき、実証実験を進め、堆肥化とコンポストによる仕組みによって生ごみの減量化に取り組んでいきたい。

新たに変更された各課の窓口業務について

問 変更されて数年が経過しているが、各課の業務内容が解りづらく、新庁舎となっても同じ名称、業務内容となるのか問う。

(町長)

答 新庁舎では、業務がスムーズに流れ、同じフロアの中で関係各課に行けるような造りにしていきたい。また、バリアフリー化、案内所設置等も検討し、町民サービスに結びつけていくことが重要だと考えている。

(総務課長)

これまで、子育て支援関連の事務業務を一元化し、妊娠期から子育て期に係る支援の窓口を集約して、町民の窓口対応の負担軽減、サービスの向上を図るため、課の再編を行ってきた。新庁舎では、各課の業務内容の案内板等を設置し、町民の皆さまに分かりやすい窓口業務の在り方を周知

していきたい。



役場庁舎内

学校給食での食物アレルギー対応について

問 最近は食物アレルギーを持つ子供達が多くなってきたが、給食は子供達が「食の大切さ」「食事の楽しさ」を学ぶ上で食育の教材としての役割もある。伊仙町では、食物アレルギー対応が不十分でこの役割を果たされていないのか問う。

(学校給食センター所長)

答 学校給食におけるアレルギー対応の基本的な考え方は安全性を最優先とし、教

育機関、給食センター及び教育関係者、医療機関等が相互連携し、共有意識を強く持つて組織的に対応することが不可欠と考える。現在の給食センターのアレルギー対応としては、代替食での給食提供や、個々に合わせた対応をとっている。

(総務課長)

学校給食について給食費の無償化も進めてきている中、給食センターの建て替えについても庁舎、学校建築の計画も踏まえ進めていくが、まず、アレルギー対応に必要なことを検証し取り組んでいきたい。



美島 盛秀 議員

大久保町長の政治姿勢について

問 新庁舎建設における指名委員会や入札と落札の結果、契約議決に至るまでの経緯について問う。

答 (総務課長) 指名委員会が令和3年11月8日に開催され、閲覧期間が令和3年11月8日から令和3年11月25日、開札が令和3年11月26日に行われた。令和3年12月9日に議案第86号として可決されている。

落札結果として、令和3

年度伊仙町役場新庁舎新築工事1期本体工事、落札金額、12億3,090万円、令和3年度伊仙町役場新庁舎新築工事1期地盤改良工事、落札金額、7,524万円、令和3年度伊仙町役場新庁舎新築工事1期外構工事、落札金額、7,205万円である。

問 役場新庁舎建設における建設費が当初18億2,300万であったが、令和4年度、6億2,253万円増額された理由について問う。

答 (総務課長) 当初、計上した金額は予備設計であり、建築場所も旧農高跡地で計画していた。

今回プロポーザルで受注した設計業者が設計した金額の増額である。

問 建築本体工事には、建具工事、電気設備工事、機械設備工事が含まれているが、それぞれの積算単価が出ているのに、地元業者が参加していない理由と、地元業者育成についての考えを問う。

答 (町長) 新庁舎建設は、大変重要な仕事であり、失敗が許されない大規模工事であると認識しており、今回はプロポーザル形式で業者を選定している。

(総務課長) 大規模工事となるため、資格や免許、機動性等を考慮し業者を選定している。また、業者育成については、技術者を抱えることが

必要になるが、維持管理で経費がかさむことなどが想定されるため、今後の課題であると考えている。

問 20年間地元業者を育てられなかった、町長の責任を問う。

答 (町長) 当初から地元業者を優先して、学校建設、ほーらい館建設等進めてきたが、トラブルが多くあったと感じている。今後スムーズに進行できるように願っている状況である。

問 1期工事の工期が令和4年12月29日だが、竣工できるのか問う。

答 (総務課長) 令和4年度中に引っ越し、令和5年4月から事務がスムーズに出来るように進めていきます。

要旨 新型コロナウイルス禍中ではあるが、説明不足が見受けられるので、しっかり説明をし、町民が理解し納得できる新庁舎が完成することを期待する。



新築工事が進む役場庁舎



大河 善市 議員

防災関係について

問 過去の大型台風接近情報での避難所設置状況

及び現在のコロナ禍での避難所施設について問う。

答 (地域福祉課長)

平成30年の激甚災害となった台風24号・25号の襲来時には、避難所はほーらい館1ヶ所だったが、その後、東部・西部にも避難所を設置した。

現在、東部コミュニティセンター・ほーらい館・総合体育館・西部公民館を中心に自主防災組織での集落

公民館や学校等指定し、さらに一般避難所以外の2ヶ所の福祉避難所も指定している。

健康増進課長

現在のコロナ禍の中、台風接近時に避難所を開設する場合は感染対策が重要であり、職員の防護服の着脱訓練や消毒作業の実施を講じた避難所の設営、運営に留意してきた。避難所入口での検温や体調チェック、連絡先の確認、避難所の環境づくりとして感染を考慮したスペースの確保と換気の徹底、医療スタッフを配置した健康観察を行い、蔓

延防止に努めていきたい。

住宅及び学校校舎改修について

問 老朽化した町営住宅の補修・改修工事実施について問う。

答 (建設課長)

現在、入居者が退去時に修繕等を行っており、改修については、令和4年度に老朽化した住宅を伊仙町公営住宅長寿命化計画に基づいて計画をしている。以後、住宅不足の解消に向けて、各地区の住宅需要を考慮し、現状にあった計画を策定し整備を進めていきたい。

問 老朽化した鹿浦小学校校舎建設計画について問う。

答 (教委総務課長)

鹿浦小学校は、町内でも最も古い校舎であり、伊仙町学校長寿命化計画に基づいて、令和6年

度工事着工の計画をしている。また、引き続き必要に応じた改修・補修を行い、

児童・生徒、学校職員の安全性を確保していきたい。



老朽化が進む鹿浦小学校校舎

航路航空路運賃軽減等事業について

問 当事業については、多くの方が恩恵を受けているが、群馬県民以外の方々への支援拡充が出来ないか問う。

答 (未来創生課長)

この事業の目的については、奄美群島民の移動コストの低減により負担軽減を図る目的で事業が活用されてお

り、群馬県民以外の旅行者に對しては、関連会議の中で要望をし、支援拡充に向け取組を進めています。

町長

大事なことは東京・大阪等からの徳之島直行便が出るかが観光の命運がかかっていると感じており、世界自然遺産登録をきっかけに要請活動を引き続き実施し、県議会議員や国会議員等と連携を図り支援拡充を進めていきたい。



牧本 和英 議員

世界自然遺産登録を生かした観光振興について

問 町内における宿泊施設、物産店、公衆トイレ等の整備状況はどのようになっているのか問う。

答 (きゅらまち観光課長) 町内の宿泊事業者については民泊を中心に11カ所、トイレに関しては、5カ所となっている。物産店については各事業者が自分の店舗で物販しているところもあるが、町内の特産品を一元的に扱っているという意味では、直売

所百菜がそれに当たると考えている。

(経済課長) 加工センターにおいては、加工組合と協議の上、要望等を伺い、設備整備、器材整備を行っている。

要望 トイレ整備、点検、清掃等のチェック体制など指導のほうよろしくお願したい。

また、伊仙町農産物加工センターに予算をかけて加工組合員の方々の協力などをもらい、観光資源の掘り起こしや、物産品の開発などに努めていただきたい。

問

島内の観光バスはどのようルートで町内を巡回しているのか、また阿権地区でいうとバスの乗り降りのスペースや、駐車場の確保ができていないので危険だと思いが認識を問う。

(きゅらまち観光課長)

答 徳之島なくさみ館や犬田布岬、泉重千代扇之像を中心に、喜念浜、阿権300年ガジュマルを周ることが多いと認識している。

また、阿権地区については、道幅も狭く乗り降り等大変だと感じている。現場を確認し、できる対応を取っていききたい。



直売所 (百菜)

要望

道の路肩に蓋のない大きい側溝があり、蓋をかぶせることによって安全性が高まるので早急に対応をお願いしたい。

問

犬田布岬の慰霊塔は、崩落が進んでいるが建て替えや改修等の予定はされていないのか問う。

(町長)

答 5年前、50周年という節目の慰霊祭に、彬子女王殿下と共に、皇室の方々が来島され、ご参列いただいたことは異例のことであった。

慰霊塔の建立にあたり当時の海上幕僚長が中心となりたくさんの方々からの募金で建立され、その後、一度修復工事を行ったが、老朽化が進んでいる状況である。今後、県の東京事務所職員も含め、要請活動を行っていききたい。

(きゅらまち観光課長)

恒久平和を願う町のシンボリックな塔ですので、国や遺族会、地元の方と検討委

員会を立ち上げ、修復、建て替えを進めていきたい。

要望 負担が大きいため、県や国、防衛省などに要望していただきたい。

併せて、周辺設備の整備も行っていたきたい。

例えば、歴史民俗資料館と戦艦大和資料館を1つにし、犬田布岬に建築するなど、地元の食材を使った食品店やお土産屋さんなどの商業施設、そして今人気のあるグランピング施設など観光客が利用できる施設があると、消費額が増え、地元活性化する原動力になるのではと考えられる。



犬田布岬慰霊塔



福留 達也 議員

施政方針全般について

問 ふるさと納税及び企業版ふるさと納税の現状について問う。

(未来創生課長)

答 ふるさと納税については、寄附件数は増加傾向にあるが、寄附金額については、前年と比較すると減少している。今後、返礼品を充実させることや、財源を活用する事業を精査し、寄附件数、寄附金額の増加が期待できると考えられる。

企業版ふるさと納税につ

いては、伊仙町が掲げる総合戦略の実現に向けて、民間資金の確保が急務であるが、企業に対しての情報周知や交渉が充分でない現状であった。令和4年度においては、コロナ禍における企業の経営状況を配慮しつつ、トップセールスを踏まえて財源の確保を進めていきたい。

また、寄附する方の要望の傾向については、自由に使ってくださるとのことが一番多いが、その他、子育て支援に関する事業、特産品開発に関する事業、環境保全、観光・定住促進、健

康増進、文化保存継承に関する事業、青少年育成に関する事業といった要望が多い状況である。

問 小規模畜産農家において困っている野ざらし堆肥を有効活用できないのか問う。

(経済課長)

答 小規模畜産農家において、堆肥の野ざらし化や、野積み化が進んでおり、降雨での流出による環境汚染が懸念されるが、小規模農家の堆肥置場において、運搬車両の進入が難しい場所も多く、回収できていないのが現状である。

一方、若手の小規模畜産農家において、近隣の小規模畜産農家の堆肥を回収し、その方の圃場に還元するといった取り組みも行われている。このような取り組みへの支援を行い、改善できるよう進めていきたい。

問 バレイショ栽培において、近隣栽培圃場からの病気の進入・蔓延に対しての対策は検討できないのか問う。

(経済課長)

答 バレイショ栽培においては、単収の向上に向けて取り組みなければならないが、その中でも、疫病、軟腐病、青枯病といった病気に対する知識を習得し、防除体制を確立して

いくことが必要であると考えている。また、本土において集団防除という、地区一帯をドローンやヘリコプターで防除する体制が取られているが、徳之島においてもドローンによる散布が進んできており、今後も増加していくと考えられる。このような散布代金の支援等を行い、病気の進入・蔓延の防止に繋げていきたい。



ドローンによるバレイショ防除のようす



清 平二 議員

令和4年度施政方針(財政健全化)について

問 令和3年度施政方針と令和4年度施政方針の違いについて問う。

(町長)

答 令和3年度の施政方針においては、世界自然遺産登録や新型コロナウイルスの感染拡大を背景とする中で、「地方創生は更なる飛躍へ全ての町民が主役のまちづくりの実現に向けて」をスローガンに掲げ、主に各分野の財政健全化に向けた見直しを進めた

上で、災害に強いまちづくり、集中から分散を目指したまちづくりをしたいというところで、各種施策に取り組んできた。

令和4年度の施政方針においては、町制施行60周年の節目を迎えるに当たって、「世界に誇る環境文化と住みたいまち日本一へ」をスローガンとして、主にウィズコロナ、アフターコロナを見据えた中での政策、具体的には、サテライトオフィスやテレワークの推進を持ち味とした首都圏からの移住定住促進事業の展開と、住宅建設の推進、

農福連携、給食費無料化など、人口増加を実現するための必要な政策への取組が特徴として上げられる。

財政健全化については、これまで議員の方々から様々な視点で政策提言を頂いている中、経済の活性化が不可欠であり、そのための人口増加に対する政策の実現は、最重要課題事項として提えている。

ふるさと納税と企業版ふるさと納税について

問 ふるさと納税等を活用して、産業振興等に役立てられないのか問う。

(未来創生課長)

答 ふるさと納税については、基金残高を考慮する中で、費用対効果が一部に限定されることのないように、活用事業については、精査していく必要があると認識している。また、牛舎整備や農業用トラクター購入に係る助成については、既存事業の概要を踏

まえ、導入状況や補助率、農家負担額等を鑑み判断することが重要であると認識しており、寄附者に対して理解を得られる使い道をしっかりと検討していきたい。

企業版ふるさと納税については、地方創生総合戦略をベースとした地域再生計画に盛り込まれた各種施策の実現、併せて効果検証を適切に行い、行政サービスの向上並びに新たな財源確保に繋げていきたい。

令和4年1月23日執行の伊仙町議会議員選挙について

問 大久保町長は当該選挙において、どのように関わったのか問う。

(町長)

答 当該選挙において、出陣式への参加、為書きの寄贈、当選祝いへ行ったが、このことについては問題ないと認識している。



伊仙町ふるさと納税における返礼品



佐田 元 議員

**世界自然遺産登録に伴う
観光施設の整備について**

問 道路整備が非常に遅れていると思うが、早急な対応ができないのか、特に町道木之香糸木名線は車の往来も多く、また道路幅員も狭い状況である。レンタカー等で通行する観光客にとっては非常に危険な道路だと思われるが、今後当該道路の整備計画等は考えていないのか問う。

答 (建設課長) 伊仙町が管理している道路の整備率、改良率に

ついては、他の市町村と比べても遅れていると認識しており、今回世界自然遺産登録されたことにより、観光客の増加が見込まれるため、観光地へのアクセス道路を優先して整備を進めていきたい。また、木之香糸木名線については、用地の確保が必要であり、地権者の同意が取れ次第、整備を進めていきたい。



町道木之香糸木名線

職員採用について

問 令和3年度職員採用試験は、何名が受験し、何名が合格したのか、また、採用試験はどのような方法で実施されたのか問う。

答 (総務課長) 1次試験の申込みが14名あり、受験者は13名であった。3次試験まで実施し、合格者は12名となっている。試験方法については、1次試験は筆記試験であり、これは全国共通で、試験問題は県から取り寄せ、採点まで県で実施し、その後点数が出てくるものである。2次試験は作文、面接を実施、3次試験はグループディスカッションであり、今年度から実施したが、非常に有意義な試験だったと感じており、今後も引き続き実施していきたい。

問 合格者の方々は、何らかの資格を持っていると思うが、その資格を生かした課に配置する予定はあるのか問う。

答 (総務課長) 12名の中には、大学、短大を出ている方、資格を持っている方、持っていない方がいるが、考慮し

て配置しなければならないと考えている。

伊仙町糖業振興会について

問 伊仙町糖業振興会における使途不明金が発覚してから約1年が経過したが、その後の進捗状況について問う。

答 (経済課長) 刑事告訴及び民事訴訟におきまして、警察関係機関または弁護士と協議の上、資料提出等を行っている状況である。

問 証拠書類等の提出を求められた場合、弁護士を通じて提出しているという捉え方でよいか問う。

答 (経済課長) 弁護士を通して提出する場合と、直接警察に提出する場合もあるが、その場合は、弁護士にも書類を送付した上で提出をしている。告訴は警察機関が受理してはじめて告訴完了となる。

令和4年 第1回伊仙町議会定例会において

令和4年度伊仙町一般会計予算他5特別会計予算審査特別委員会

（一部抜粋※委員長報告につきましては、町ホームページ「会議録」をご確認下さい。）

去る3月8日の本会議において、当初予算審査特別委員会が設置され、「令和4年度伊仙町一般会計他5特別会計予算」を付託し、3月11日から16日までの3日間審議致しました。そのなかで、3月11日に、委員並びに議長を含む14名と事務局職員2名、執行部からは大久保町長が同行し、現地調査を行いましたので主な項目について報告いたします。

●1件目は、喜念小学校解体・グラウンド整備設計業務委託について、喜念小学校建替えについては、令和元年度から令和2年度までに校舎耐力度調査、「伊仙町学校施設長寿命化計画」並びに「喜念小学校建替基本計画」を策定し、令和3年度においては、地質調査、校舎新增改築工事に伴う学校用地測量業務、校舎新增改築工事設計業務を委託しており、本年7月頃を目途に工事着工ができるよう業務を進めているが、同校舎においては敷地内にて遺跡が確認されたことにより、工事着工の前に埋蔵文化財の調査等を行う可能性も出てきたとの説明でありました。

今後関係する部局がスムーズに互いの業務が遂行できるよう連携し、学校建設に向けて取り組むよう要望しました。



●次に、公営住宅建設事業の「喜念団地・検福赤久団地・阿三カシナトウ団地」について、喜念団地は、空き地部分に1棟3戸の新築工事、検福赤久団地については、屋上防水、外壁改修、トイレ水洗化をメインとした2棟8戸の改修工事、阿三カシナトウ団地は、2棟6戸の新築工事であり、近年2人世帯の入居者需要が増えてきていることから、阿三カシナトウ団地は、1部屋約60平方メートルの床面積で設計しており、経費削減、または家賃低廉化となっているとの説明でありました。

子育て世帯向け住宅について、防音対策を行うこと。新築ばかりでなく、古い住宅も水回り部分のみを改修することで、低所得者に対して低価格で貸すことができ需要も十分にあると思われまので、今後の住宅政策に向けて検討されると共に、老朽化した教職員住宅についても教育委員会と連携し、対応されるよう併せて要望しました。



●次に、特定地区公園整備事業について、当該事業は、社会資本整備総合交付金を活用し、令和元年度から順次整備を行っているもので、これまでに義名山総合グラウンド管理棟の改修工事、遊具広場、令和3年度に大型遊具の設置、多目的広場の整備を進めているとの説明でありました。

大型遊具の設置予定カ所について、近くで遊ぶ子供たちがケガ等をしないように、立ち入り禁止等の措置を講じることと共に、公園横にある既存の公衆トイレについて、障害者の方々も利用できるように改修することを併せて要望しました。



●次に、「テレワーク環境・サテライトオフィス整備事業」について、新型コロナウイルス感染症の拡大により、日本国内におけるテレワークが急速に普及するなか、地方への拠点開設を模索する企業側のニーズに応え、サテライトオフィス開設に向けた誘致活動を推進し、交流人口の創出による地域の活性化につなげることを目的としており、令和3年度に整備を終え、令和4年度からの開設に向けて準備が進められ、先般議会へ条例の制定が提出され可決されたものでありました。

今後、想定される入居企業については、無人による自動運転技術の



研究開発を行っているNTTデータオートモビリティジェンズ研究所が本施設を拠点とした実証実験を検討し、現在までに2回の現地調査を行っているとの説明でありました。

このことについて、(1)休館日・使用時間帯の設定について、(2)利用者の駐車場確保について、(3)防犯等を含めた今後の管理方法について、(4)窓の事故防止対策について、(5)施設の利用促進について等、以上についての対応を行い、幅広い利用者のニーズに沿った運営・管理が行えるよう要望しました。

●次に、農業支援センター運営費について、昨年8月から新たなセンター長のもと運営されており、活動実績として、農業塾の開催、きのこにじいろクラブやひまわりの家と連携し土壌づくりから各種野菜の定植、収穫体験の実施。町内保育園や小学校への出前授業などを行っており、農業塾についてはとても好評で回数を増やす検討をしているとの説明でありました。

実証圃場についても、ばれいしょ、かぼちゃ、スイートコーン、キャベツ、ブロッコリー、レタス、バジル、ローゼル、枝豆、大根等、多種多品目を栽培し年間を通して栽培、収穫ができるような取り組みがされており、とても充実した活動がされていました。

研修生については、いまだ応募がない状況との事でありましたが、様々な媒体を活用し、早急に研修生の確保に努められるよう要望しました。



●次に、令和2年度繰越明許費の集落活性化推進事業で整備された阿権前里屋敷について、阿権集落は、観光地として琉球石灰岩を使用した長方形・多角型に加工された相方積みで南島特有の雰囲気を感じさせる石垣や、樹齢300年の歴史あるガジュマルなど観光名所として多くの観光客が訪れることから、前里屋敷を改修し、環境学習室・健康教育室等を整備し、集落住民の憩いの場・しまっこガイドの拠点・観光客も利用出来る場として令和3年度に改修工事が行われ、令和4年4月のオープンを目指し進めているとの事でありました。施設の管理について、当面の間は未来創生課で対応し事業目的に沿って各種補助金及びふるさと納税の活用を検討しつつ、民間への指定管理や業務委託等を検討していくとの説明でありました。

今後、施設運営を行うに当たって、(1)休館日・使用時間帯の設定について、(2)駐車場の確保や町道沿いの水路の蓋の設置、(3)看板の設置や観光客等に対応した前里屋敷パンフレットの作成、(4)SNS等を活用した情報発信の強化、以上について検討し、集落活性化はもちろんのこと、今後予測される多くの観光客に対応した体制整備を行うよう要望しました。



第63回奄美群島市町村議会議員大会



去る、5月10日（火）、奄美市市民交流センターにて、第63回奄美群島市町村議会議員大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、3年ぶりとなった今大会では、大島郡内各市町村（5ブロック）から5件の議題が提出され全て採択されました。また、同大会において、自治功労者表彰（※町村議会事務局職員として5年以上在職した者）があり、伊仙町議会事務局から元原克也事務局長が表彰を受けました。

今後とも伊仙町議会の一員として、リーダーシップを発揮されることを期待し、町民の皆様へのご報告にかえさせていただきます。

町村議会議員研修会



去る、5月17日(火)、鹿児島市民文化ホールにて、町村議会議員研修会が開催されました。防災・BCP策定アドバイザー／ソナエルワークス代表高荷智也氏より、「メディアでは語れない防災対策～大地震からパンデミックまで、想定外の災害と一歩足りない防災の課題を知る～」という題材から、パンデミックは必ず起こるとの認識を持ち、防災への備えをしっかりとしておくことの重要性について講義されました。

次に、有限会社志緑塾代表取締役大谷由里子氏より、「リーダーって何やねん!?～人のこころのつかみ方～」という題材から、リーダーとして、自分のこころが元気であること、人の秘めているものを引き出してあげることの重要性について講義されました。

議会の動き

令和4年第1回伊仙町議会定例会における諸般の報告(議長の動静)

動静期間: 令和3年第4回定例会(12月9日)以降の分

月	日	行事名	場所
令和3年12月	19日	三菱重工パワーインダストリー(株) 牧浦社長講演会	中央公民館
	22日	伊仙町役場新庁舎安全祈願祭	役場
	22日	徳之島三カ町議会議員連絡協議会 第2回役員会	議会委員会室
令和4年1月	13日	地球畑30周年記念式典	鹿児島市
	28日	新議員懇談会	委員会室

月	日	行事名	場所
令和4年2月	4日	令和4年第1回臨時会	議事堂
	8日	ゴミ焼却施設長寿命化総合計画説明会	愛ランドクリーンセンター
	16日	大島郡議長会総会・各種協議会	奄美市
	17日	伊仙町行政運営調査会	中央公民館
	17日	崎原団地地鎮祭	崎原地区
令和4年3月	3日	議会運営委員会・議会全員協議会	委員会室
	4日	ほーらい館運営審議会	ほーらい館

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。

編集後記

いよいよ本格的な梅雨シーズンを迎え、今年はい例年に増して雨が多く、農家の皆様にとりましてはなかなか農作業のはかどらない日々々に苦慮されているのではないのでしょうか。

また、町内におきましても新型コロナウイルス感染者が日々発生し、予断を許さない状況が続いております。今一度、感染防止対策をしっかり心がけ、町民一丸となつてこの難局を乗り越えていきましょう。

さて、新年度スタートから早くも2ヶ月が過ぎ、議会だより「いせん」第73号発行を迎えました。

本年5月にしばらくコロナの影響で中止となつていた奄美群島市町村議員大会、町村議会議員研修会が開催され行つてまいりました。議員大会では徳之島より、病床数の増床について提案しました。現在、徳之島徳洲会病院の病床数は199床であり、新設にあつて250床を目指しています。地区別病床数で見ても、奄美大島地区1223床、徳之島地区277床、喜界地区108床、沖永良部地区186床、与論地区89床であり、これは病床1に対し人口は、奄美大島地区47・4人、徳之島地区77・4人、喜界地区60・1人、沖永良部地区63・4人、与論地区56・6人であり、徳之島地区は極端に病床数が少ないことから、群島内の医療格差是正を図るためにも特段の配慮をもつて強く要望したところです。

今後とも引き続き、議会だよりを通じて町民の皆様へ議会の動きや活動状況を発信させていただきますので、ご意見等お寄せいただければ幸いです。編集後記とさせていただきます。

(文責 杉山 肇)

議会広報編集委員会



委員長 牧本 和英
副委員長 杉山 肇
委員 美島 盛秀
委員 永田 誠
委員 久保 量